

霊仙寺湖

(れいせんじこ)



全景



ため池から望む黒姫山と妙高山

ため池の概要

ため池の所在地

長野県上水内郡飯綱町

ため池の特徴

霊前寺湖は、鉄分(ソブ)が多く生産性が低かったこの地の農業生産を向上させるため、昭和49年に築造されたもので、鉄分を沈殿させ、うわ水を放流することで水質を改善し、今では下流水田65haは特A米コシヒカリの産地となっています。

霊仙寺湖は飯綱東高原の中核的な観光資源であり、夏にはボート、カヌーが浮かび、冬にはワカサギの穴釣りで賑わっています。更にこの地域にまつわる天狗伝説とも相まって、湖畔では「薪能」の上演や「天狗の火舞花火大会」などが開催され、数万人の観光客が訪れます。

最近希少種の「ホソバナシバナ」が住民によって発見され、保護の動きも大きくなっています。

関連情報

飯綱町公式ホームページ <http://www.town.iizuna.nagano.jp/>

飯綱町観光協会ホームページ <http://www.1127.info/>

竜ヶ池

(りゅうがいけ)



全景



池に映えるさくら並木と松

ため池の概要

ため池の所在地

長野県須坂市

ため池の特徴

須坂市は長野県内有数の果樹産地であり、竜ヶ池の水もりんご、ぶどうなどの果樹栽培に使われています。

竜ヶ池のある「臥竜公園」は、明治神宮などを設計した日本初の林学博士、本多静六氏により設計されたもので、ため池とともに昭和6年に築造されました。

当時は昭和初頭の世界恐慌で、皮肉にもこの築造は、製糸の町須坂の製糸工場で働いていた多くの人々の失業者対策として行われるなど、歴史の哀歌を刻みました。今では池にたくさんの鯉が優雅に泳ぎ回り、四季の水鳥が数多く飛来し羽を休めている姿が見られます。

池の周りには桜が植えられ、その並木は『さくら名所100選』に選定されています。

また、池の半分を囲み龍が臥しているように見える「臥竜山」には美しい松があり、こちらは『日本の名松100選』に選定されています。

また、地元の小山小学校では、環境教育の一環として、公園管理事務所と共同で竜ヶ池の水質浄化に取り組んでおり、微生物による透明度向上等の成果を上げています。

関連情報

須坂市ホームページ <http://www.city.suzaka.nagano.jp/shoukou/kanko/GARYU/garyu.php>

須坂市観光協会ホームページ <http://www.suzaka-kankokyokai.jp/garyuukouen.php>

須坂市立小山小学校ホームページ <http://www.koyama-school.ed.jp/ECO/index.html>

北竜湖

(ほくりゅうこ)



全景



初夏のため池と菜の花

ため池の概要

ため池の所在地

長野県飯山市

ため池の特徴

北竜湖は、江戸時代、飯山藩の新田開発の水源として築堤され、現在も農業用水として利用されているため池です。池のほとりでは、菜の花が作付けされ、初夏には水面や新緑の山々とのコントラストが見事です。

「片目の鯉」、「早乙女池」など、鯉の恋愛成就の伝説が昔から言い伝えられ、また、池の形がハート型をしていることから、近年「恋愛成就の湖」として多くのカップルが訪れるようになってきました。弁天島にある弁財天では、弁天祭(水神祭)が毎年行われています。

三方を自然林に囲まれた神秘的な湖は、「長野の自然100選」(1988年)に選定され、長野県自然環境保全条例に基づく「郷土環境保全地域」にも指定されています。

冬期にはカモ類の渡り鳥が多数飛来し、池周辺は鳥獣保護区に指定されています。また、「遊歩百選」(2002年)にも選定され、ため池の周囲を歩く観光客も多く、地元の小学校でも遠足などの行事に利用しています。ため池周辺の木製防護柵は、地域の住民が自ら設置したものです。

関連情報

北竜湖文化芸術村ホームページ

http://www.geocities.jp/hokuryuuko_iiyama/index.html

蓼科湖

(たてしなこ)



全景



湖畔でスケッチを楽しむ人々



円筒分水工

ため池の概要

ため池の所在地

長野県茅野市

ため池の特徴

蓼科湖は、八ヶ岳中信高原国定公園内にあり公園のシンボリックな観光資源となっていますが、もともと標高1200mの冷たい水を適温に温める「温水ため池」として築造されたものです。

昭和27年に完成したこの湖によって稲の収量や品質が大きく改善し、現在も403haの農地のかんがい用水として利用されています。

諏訪地域では珍しく、水の分配比率を正確に決めることのできる円筒分水工がため池直下であり、昔から水で苦労した地域であったことを伺わせます。

周辺環境・景観ともに非常に良好に保たれており、鳥類の渡りの休憩場所となっているほか、魚や水生昆虫・植物などの在来種も良好に保全されており、生物にとっても貴重な水辺空間となっています。

関連情報

蓼科高原/茅野市観光連盟ホームページ

<http://www.tateshinakougen.gr.jp/pamph/pdf/VG09-3.pdf>

白樺湖

(しらかばこ)



全景



新緑の白樺湖

ため池の概要

ため池の所在地

長野県茅野市

ため池の特徴

白樺湖は、白樺リゾートエリアの中心をなし多くの観光客が訪れる全国的に有名な観光地ですが、もとは標高1,000mを超えるこの地で稲作を行うため、昭和21年に国営事業によって造られた温水ため池で、現在も110haの水田を潤しています。

白樺湖の湖底には、複数の遺跡が眠っており、その中の一つである御座岩遺跡は、諏訪明碑の御座所であったという伝説からこの名前が付けられました。

戦国時代、武田信玄が北信濃の制覇の軍議の際、この御座岩に腰を据えたとされています。

湖は八ヶ岳中信高原国定公園内に位置し、カラマツや白樺の美しい緑と高山植物の草花に彩られた四季折々の姿を見せています。

ため池を管理している池の平土地改良区は、白樺湖自治会や植栽をする組合とも連携し、ため池がいつも美しく、人々が訪れる憩いの場となるよう積極的な活動を続けています。

関連情報

長野県公式ホームページ

<http://www.pref.nagano.jp/xtihou/suwa/tochikai/homepage/index.htm>

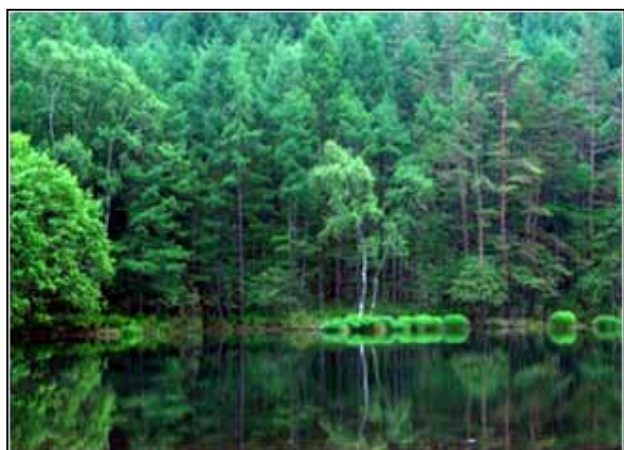
<http://www.pref.nagano.jp/nousei/nochi/agriobje/history.htm>

御射鹿池

(みしゃかいけ)



全景



新緑の湖岸

ため池の概要

ため池の所在地

長野県茅野市

ため池の特徴

御射鹿池は、日本画の巨匠・東山魁夷画伯が1982年に発表した作品「緑響く」の取材地として有名な池で、木々の緑が映りこむコバルトブルーの水面は訪れる人たちを魅了しています。

標高1,100mを越えるこの地域は、かつて3年に1度米がとれればよいといわれた冷害常習地であり、また水源の渋川の水は強酸性でした。昭和8年に完成したこのため池で、水を希釈し温めることによってこの地域の水稲の収穫量や作柄は大きく上がり、地域の農業振興は大きく発展しました。

「御射鹿池」の名の由来は、この地域が神野(こうや)と呼ばれ鎌を入れることも許されなかった神の御狩場であり、諏訪大社上社の後頭祭の時に神に奉げる牝鹿を射る神事(御射山御狩神事)があったことと伝えられています。

八ヶ岳中信高原国定公園内の風致を維持するための特別地域に属しており、カモなどの渡り鳥やトンボ類(ルリイトンボ)・蝶などが見受けられます。

在来の植物(桔梗、ゆり等)を随時植栽したり、堤体の草刈りや枯れ木の伐採や枝打ちなど、美しい景観を守る活動も継続的に行われています。

ため池の湖水はpH4前後の強酸性で、湖底には酸性水を好むチャツボミ苔が繁茂しており、湖面に木々がきれいに映ると言われています。

関連情報

長野県公式ホームページ

<http://www.mizumori.pref.nagano.jp/modules/pukiwiki/?%B8%E6%BC%CD%BC%AF%C3%D3%A4%CE%B2%FE%BD%A4>

大座法師池

(だいざほうしいけ)



全景



湖面に映る飯縄山

ため池の概要

ため池の所在地

長野県長野市

ため池の特徴

大座法師池は、飯縄山の麓にあり、水田135haを潤す重要なため池です。

古来より、水源の浅川は流量が少なく幾つかのため池が築造されてきており、大座法師池もその一つです。築造時期は定かではありませんが戦国時代の延宝2年(1674)には既に水利権を得て管理していたことが明らかになっています。

この池は、その形状から、伝説としてその昔「だいだらぼう」という大男が飯縄山を海へ放り投げようと思って飯縄山に手をかけ、「うんこらしよ」と足を踏ん張ったとたんに大地にめり込んでできた足跡に水がたまったと言われています。

湖面に写る飯縄山の風情は周囲の自然に溶け込んで心和む景観を醸し出し、春にはこぶしや山桜が咲き、夏は一带がキャンプ場となり若者であふれ、8月15日には飯縄の火祭りが行われ大座法師池の湖面は五色の花火で彩られます。

長野県自然保護研究所の調査によると、池ではコイ、ギンプナ、オオクチバス、トウヨシノボリが確認されています。湖岸からは体長60センチに及ぶ錦鯉を目にすることができます。

関連情報

駒ヶ池

(こまがいけ)



全景



駒ヶ池に映る中央アルプス

ため池の概要

ため池の所在地

長野県駒ヶ根市

ため池の特徴

駒ヶ池は、大田切川の水を温めて水田をかんがいする温水ため池で、地域の新田開発に大きく貢献してきており、現在、下流の水田ではブランド米(上伊那米)が作られています。

池は駒ヶ根高原にあり、堤体には石積護岸や散策道等が整備され、湖面に映る中央アルプスの景観が見事な観光資源となっています。

池南側にはあやめ園があり、また周辺部には桜が植えられ、野生のリンドウなども咲く自然豊かなため池であり、渡り鳥(カモ)の飛来地にもなっています。

ため池施設は、大田切土地改良区が定期的に適正な維持管理を行っているほか、周辺部の植栽等は、観光協会が維持管理を行っています。

関連情報

駒ヶ根観光協会ホームページ

<http://www.kankou-komagane.com/tree4/plateau2.html>

大洞の池

(おおどうのいけ)



全景



住民に愛される大洞の池

ため池の概要

ため池の所在地

長野県上水内郡小川村

ため池の特徴

標高1000mにある大洞の池は、北アルプスの眺望に恵まれ、星もきれいに見えることから、一帯は「星と緑のロマンチックピア」として、ため池を取り囲む形で天文台やプラネタリウム、宿泊施設や農業体験施設、児童遊園などが整備され、一体的な教育文化観光施設として多くの人々が訪れています。

河川のないこの地域では、稲作拡大にはため池が必要であり、地域の人々が明治33年に信用組合を立上げて自ら資金繰りを行い、人力によりこの池を築造しました。これによって稲丘西地区では水田の開墾が進み、多くの農家が稲作を始めることができました。

建設当時から36人の明治庚子溜池組合が管理し、毎年総会や草刈り、配水計画を実行し、文献資料もきちんと管理され、現在も地域の水田約20haを潤しています。

大洞の池は、防火用水としても活用されており、消防団により毎年防災訓練も行われています。

このように、地域住民は農業はもとより古くからこの池を中心に、桜の植樹、草刈り、魚釣り、遠足、祭り、防災事業、観光開発等を行ってきています。

関連情報

千代田湖

(ちよだこ)



全景



幻想的な風景の“千代田湖”

ため池の概要

ため池の所在地

長野県伊那市高遠町

ため池の特徴

千代田湖は、新田開発のために昭和27年に築造されたため池で、現在、下流の水田ではブランド米(上伊那米)が生産されています。

金沢街道の起点にあり、清水が湧いていることからここに造られたとされ、現在もその名残として標識、地蔵、馬頭観音があります。

標高1300mにあり、豊かな自然と調和したため池であり、多種多様な植物(希少種:ミツガシワ)がみられ、渡り鳥(カモ)の飛来地にもなっています。

また、周辺にはキャンプ場、学習施設があることから、県内外から多くの人に利用され親しまれています。

関連情報

伊那市観光協会ホームページ

<http://inashi-kankoukyoukai.jp/cms/modules/myalbum/photo.php?lid=121>

野底堤

(のそこつつみ)



全景



芝桜映る“野底堤”

ため池の概要

ため池の所在地

長野県伊那市

ため池の特徴

明治10年築造のため池で、古くから地域用水の要として活用されてきた施設です。

改修に併せて堤体天端に芝桜が植栽され、地域では「芝桜のため池」として親しまれています。

ため池施設は、野底水利組合が定期的に適正に維持管理を行っています。

関連情報

美鈴湖

(みすずこ)



全景



恵みの水を湛える美鈴湖

ため池の概要

ため池の所在地

長野県松本市

ため池の特徴

美鈴湖は、八ヶ岳中信高原国定公園内にある農業用ため池で、春から夏にかけての木々の芽吹きや草花の彩が訪れる人の心を和ませてくれます。秋は山々の紅葉が楽しめ、冬には雪を頂く北アルプスを展望することができます。

池は、安土桃山時代の慶長2年、信濃国松本藩によって構築され、その後江戸時代に二度の増改築工事が行われたとされています。

ため池の形状が大男の足跡に似ているということで松本の民話にも登場します。

昭和に入り農業生産の拡大に伴い水不足が深刻化し、農村で争いが発生したため、戦中から戦後にかけて県営事業により再度大改修が行われました。現在でも下流250haの水田地域を潤しています。

関連情報

箱畳池

(はこだたみいけ)



全景



箱畳池と親水公園

ため池の概要

ため池の所在地

長野県上田市

ため池の特徴

藤原田区は農業用水としての安定した水源に乏しく、昔はかんがい用水として七つの湧水に依存していましたが、1662年には蓼科山大滝地籍の水源まで延長55kmに及ぶ八重原堰が完成し、かんがい用水の安定供給を受けることができるようになりました。

箱畳池は、この堰を有効に活用するため、1688年に築造されたもので、現在も水田約40haを潤しています。

箱畳池は、上田市から親水公園の指定を受け、散策路・親水施設等も整備され、地域の人々が日常的に水辺、親水空間として活用しています。

関連情報